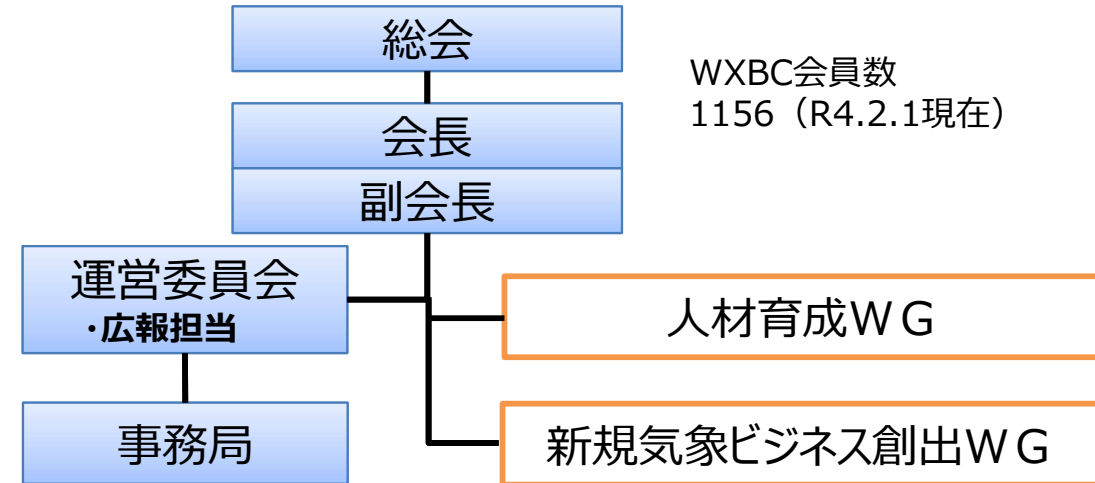


1. 運営体制

- 今年度と同様、総会、運営委員会、人材育成WG、新規気象ビジネス創出WG、広報担当の体制を継続する。
- 会長、副会長の任期はWXBC規約により2年、運営委員の任期はWXBC細則により2年であり、今年度の改選はなし。
- 現広報担当（ヤフー 田中委員）にも引き続きご担当いただく。



2. 活動内容

人材育成WGの取組

<普及啓発>

- ①気象データのビジネス活用セミナー
- ②テクノロジー研修「気象データ分析チャレンジ！」
- ③地方展開
- ④「気象データアナリスト育成講座」

<WG内活動>

- ①話題提供：WGメンバーやゲストによる最新情報や興味深いトピックスの紹介を通して情報共有と意見交換を図る。
- ②勉強会活動：「ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場作り」に「深める場」と「広める場」の2つのアプローチで実現を目指す。
(詳細：P27～P28)
- ③気象データアナリスト育成講座：ガイドラインの適宜の更新、講座の普及・定着のための協力や支援等を検討する。

連携

新規気象ビジネス創出WGの取組

<普及啓発>

- ①気象データのビジネス活用セミナー
- ②気象データの利活用事例集の拡充
- ③他機関との連携

<WG内活動>

- ①自社紹介
新規加入会員による自社紹介や、各社での取り組みの紹介を通じ、会員同士の交流を図る。
- ②意見交換・議論
毎回テーマを設定し、気象データの活用可能性や気象ビジネスの関わりなどについて、意見交換や議論を行う。

令和4年度の活動方針（人材育成WG）

人材育成WGの取り組み（詳細）

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の育成
6年目の活動目標～挑戦から目標へ～：ニーズ側とシーズ側の連携・協働の場作り

気象データ活用でビジネスの課題解決
気象データアナリスト育成講座
ビジネス視点の講座（気象学x気象データxデータ分析）

ガイドライン更新
制度定着への協力・支援

ワクワクする活動で
若手参加者の増強

ビジネス
課題解決力
発想力
ニーズ側とシーズ側の連携・協働
WG内グループ別勉強会
地方展開&モデルケースづくり

未来を背負う若年層
へのアプローチ

気象データ利用の裾野拡大
WXBCセミナー

気象データ
理解力

- ・気象データの種類・特性・最新情報等
- ・気象データ活用事例

IT活用力
& データ分析力

IoT、AI等のIT活用&データ分析で
気象データの高度利活用
テクノロジー研修

- ・気象データ分析チャレンジ！AIチャレンジ！

令和4年度の活動方針（人材育成WG）

人材育成WGの取り組み（詳細）

命題：ビジネスに気象データを活用できる人材の育成 6年目の活動目標～挑戦から目標へ～：ニーズ側とシーズ側の連携・協働の場作り

【活動内容】

1. 全体施策：気象データに関する知識と活用スキル向上の場の提供を継続・強化

- ①WXBC気象データのビジネス活用セミナー（ビジネスWGとの共同企画、オンライン開催）
- ②テクノロジー研修「気象データ分析チャレンジ！」（入門編からアンサンブル予報まで。オンライン開催）
- ③地方展開（管区主導のセミナー/研修、モデルケース展開 等）
- ④「気象データアナリスト育成講座」（ガイドライン見直し・更新、講座の普及・定着に向けた協力・支援）

2. WG内施策：ユーザー側とシーズ側の連携・協働の場づくりに注力

- ① 深める場～情報・経験の共有、議論、調査・研究、考察等で深める～
 - ・農業分野：CoP（Community of Practice）づくり、モデルケースづくり
 - ・気象ビジネスの価値考察：気象データ活用の対象や適用要因の調査・研究
 - ・新型コロナ×気象データ：分析対象データの調査・研究
 - ・気象データ×IT：自己研鑽＆切磋琢磨の研修の場づくり
- ② 広める場～情報提供、知識やスキル向上のための活動で広める～
 - ・再生可能エネルギー分野：青少年教育のための教材作り・展開
 - ・気象データ×IT：裾野拡大のための研修開発、気象データアナリスト育成協力支援（ガイドライン見直し等）

【課題】・会員企業の社員（特に若手社員）のWG参加

- ・特にSDGsに関心の高い若年層（小中高生＆大学生など）向けの活動展開
- ・「気象データアナリスト」制度への協力・支援

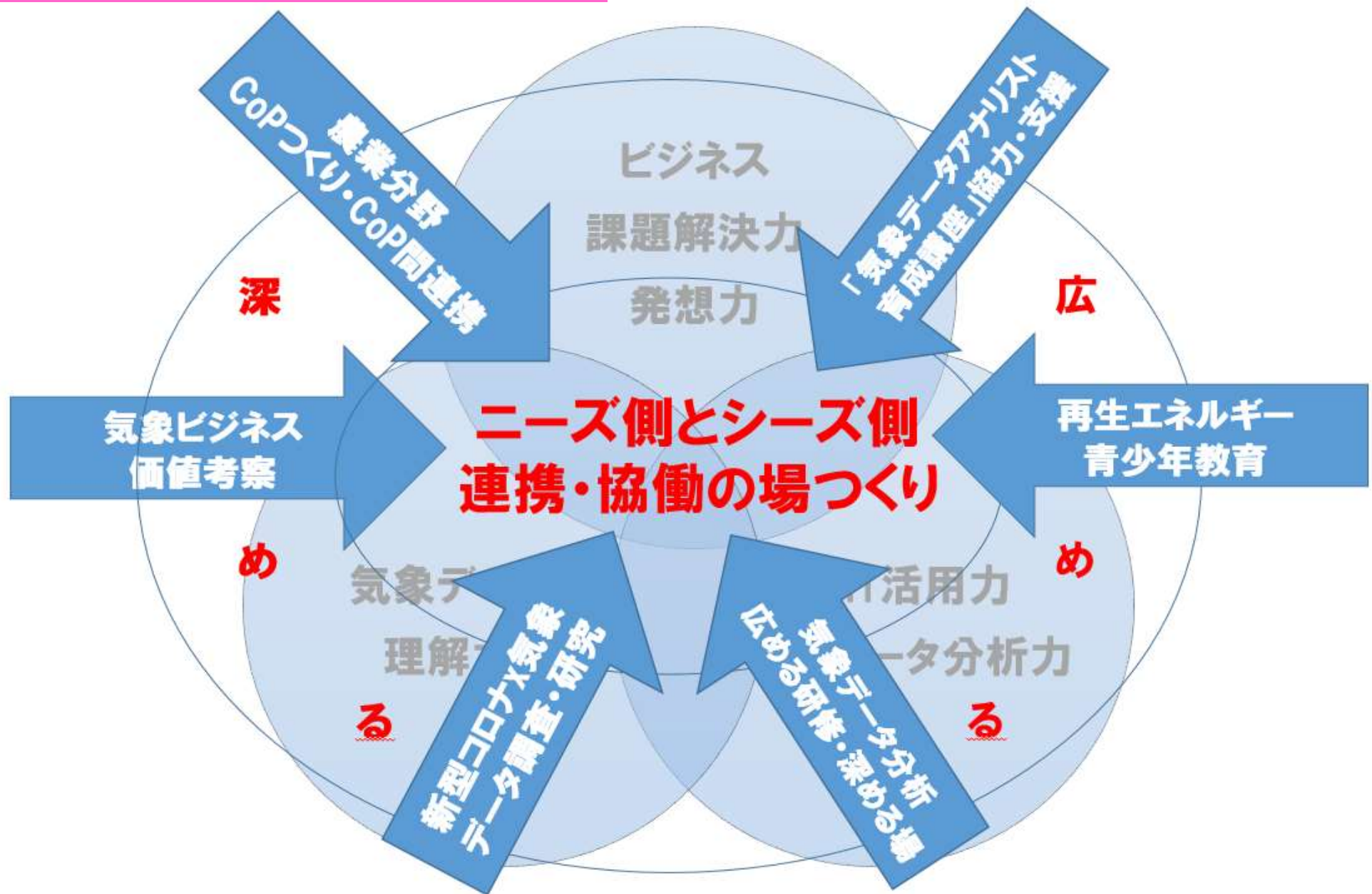
=====

【年間計画】月例WG（第3金曜日午後）：全体会議＆グループ別勉強会（情報・意見交換等にはSNSを利用）

第2回人材育成WGオープンセミナー：2022年4月開催予定

令和4年度の活動方針（人材育成WG）

人材育成WGの取り組み（詳細）



グループ別勉強会の概要&活動計画①

【勉強会の概要】

活動の趣旨： 特化したテーマについて参加メンバーが自主的、自発的、主体的に活動する場

対象者： 人材育成Gメンバーで勉強会の活動趣旨に賛同する有志

活動方法： オンライン会議 + SNSやメール（日々の情報&交換に利用）

活動報告： 月例人材育成WGで状況報告

成果発表： 人材育成WGオープンセミナーで発表

活動中の勉強会： ビジネス視点） 農業分野、再生可能エネルギー、気象ビジネスの価値考察
テクノロジー視点） 新型コロナ x 気象データ、気象データ x IT

【ビジネス視点】 農業分野：多様な気象データの活用、高度利用で日本農業を元気に！

「気象/気候変動へ適応／緩和可能な農業を目指し、連携する仲間との共創の場（実践知・集合知コミュニティ：CoP）をつくり、地域毎に適応した環境と共生する営農へのDigital Transformationを志向した「デジアナ栽培暦」と「栽培知・経営知」構築に取り組む」

【現状】

課題解決へ向けた共創の場*1として、CoP作りに取り組んだ。その結果、営農課題の解決へ酪農や麦を対象に取り組むCoP、技術・情報・人材育成の課題解決へ取り組む、予報士や有識者のCoPが発足*2し、ニーズとシーズをつなげる物語作りが始まった。（参照：添付図1、2）

【次年度計画】

関係CoPと酪農や農業のニーズに応えるソリューションを考え、その検証に取り組む。検証では、ソリューション構築のためのデータ取得、その妥当性、実用性を確認する。取り組む検証に勉強会コアメンバーは、ニーズとシーズのマッチングによる“つなげる物語”作りを果たしてゆく。

グループ別勉強会 活動計画②

【ビジネス視点】 再生エネルギー分野：再生可能エネルギーと気象ビジネス、教育に関する勉強会

「再生可能エネルギーと気象に関する実運用や調査研究、再エネ 教育・啓発や生涯教育、それらの課題について共有、議論し、ニーズやシーズの付け合わせを進める」

【現状】

再生可能エネルギー関連の情報収集、気候変動や極端気象下での再生可能エネルギーの課題・防災、学協会でのオンラインセミナー実施、再生可能エネルギーと気象に関する教育コンテンツ動画試作、各勉強会との合同勉強会の開催など

【次年度計画】

引き続き、再生可能エネルギーと気象関連の情報収集と意見交換、再生可能エネルギーと気象をテーマとした教育コンテンツ作成、オンラインまたは対面を想定した学習機会の提供、書籍・紙面等での勉強会での活動等のアピール

【ビジネス視点】 気象ビジネスの価値考察：気象情報利用サービスの創出価値を考察する勉強会

「気象情報活用サービスの提供当事者だけでなく、利用者等のステークホルダの観点も含めて考察し、気象ビジネスの効果や納得性を高めるための重要要素を見いだしていく。また、気象情報活用サービスの創出価値のさらなる拡大を目指し、気象現象の与える社会や経済等への影響波及を間接的影響などを含めて、より広い範囲で考察していく。」

【現状】

ステークホルダ観点では、社会課題解決に関するいくつかの事例のブレインストーミングを行い、検討を進めた。また、サービス拡大については、気象現象が間接的に産業分野に経済波及する産業連関などの分析・考察を進めた。

【次年度計画】

考察を継続し、ステークホルダ観点については、共通的な要素のまとめを行う。また、気象情報サービスの拡大については、新たな観点の模索も行いつつ、検討を続ける。（添付：気象情報の利活用の進展方向）

グループ別勉強会 活動計画③

【テクノロジー視点】 新型コロナ x 気象データの相関関係：感染予防対策モデルの考察を目指す勉強会

「新型コロナウイルスと季節性要因の関係性が不明な現状（2020年5月時点）ではあるが、気象データと突合することで解析・分析できれば感染予防対策の1つの参考事例になるかと考える。AIチャレンジ！やWXBCセミナーでの学習を踏まえて挑戦してみたい」

【現状】

感染状況のデータを公開している地域から入手した新型コロナウイルスの感染傾向と気象データ（単純な気温、湿度）とを突合せ相関関係を見出すことに挑戦した。2021年6月30日以前のデータ（第4波まで）では明確な相関関係がない可能性が高いと一旦結論付けることとし、所感を公開した。→<https://www.facebook.com/DoradonSystem>

【次年度計画】

新型コロナの感染と気象データの相関関係については引き続き追及し、感染予防対策の一環として二酸化炭素濃度計の作成を再開する。また、これまで各地の公表データなどオープンデータの取り扱いに際して体験した様々な事象に基づき、オープンデータの在り方について考察をとりまとめいく。（詳細：添付2022年度活動予定）

【テクノロジー視点】 気象データ x IT：IT活用による気象データの高度利用を推進！

テクノロジー研修のラインアップを検討し、新研修パッケージの開発と研修実施を進め、研修資料や動画の公開も行う。気象データアナリスト育成のためのスキルセット・カリキュラムおよび教材の検討に協力する。（添付：研修の位置付け）

【現状】

「アメダス気象データ分析チャレンジ！（Python版）」、「アメダス気象データ分析チャレンジ！入門（Excel版）」、「メッシュ気象データ分析チャレンジ！」「アンサンブル予報データ分析チャレンジ！（基礎編）」の研修を実施した。また、気象データアナリスト育成のスキルセットおよびカリキュラムガイドラインの策定に貢献した。

【次年度計画】

裾野を広げるためのテクノロジー研修の研修パッケージの開発と研修を実施する。自己研鑽と切磋琢磨を目的とする有志の勉強会（プロトタイプ開発等）を企画する。気象庁の要望に応じて気象データアナリストのカリキュラムの見直し等に協力する。

令和4年度の活動方針（新規気象ビジネス創出WG）

新規気象ビジネス創出WGの取り組み（詳細）

（1）定期会合

会員相互の情報提供や意見交換を活発に行い、参加各社のビジネスに繋げる

➤ 自社紹介や意見交換・議論に十分な時間を割く

✓ **自社紹介**

新規加入会員による自社紹介や、各社での取り組みの紹介を通じ、会員同士の交流を図る。

✓ **意見交換・議論**

毎回テーマを設定し、気象データの活用可能性や気象ビジネスの関わりなどについて、意見交換や議論を行う。

（テーマの例）

- ・デジタル田園都市国家構想とデジタル庁について
- ・グリーン社会実現や脱炭素、TCFDへの対応について
- ・スタートアップ支援への関わりについて
- ・自動運転について
- ・大阪万博への関わりについて

➤ WG会合を定期的に行う

✓ 3か月に1回のペースで年に4回開催

✓ 年間開催日程は、4月までにWG会員へ周知

令和4年度の活動方針（新規気象ビジネス創出WG）

新規気象ビジネス創出WGの取り組み（詳細）

（２）普及啓発

前年度に引き続き、気象ビジネスの裾野を広げ、交流を促す活動に取り組む

- 気象データのビジネス活用セミナー
 - ✓ 人材育成WGと共同企画し、気象データの活用事例を通じた普及啓発を促進する。
 - ✓ 前年度に引き続きオンライン開催とし、全国からの参加を可能とする。
- 気象データの利活用事例集の拡充
 - ✓ 課題や分析方法、効果に重点を置いた事例集への改訂も視野に検討する。
- 他機関との連携
 - ✓ 他機関主催イベントを活用した情報発信を行う。
 - ✓ 他機関との共催によるセミナー等イベントの開催も視野に入れる。